

合格体験記

2022年7月5日 記

国家総合職（特許庁）理工学部 建築学科 新井梓文

1.はじめに

この度、国家総合職（大卒程度）工学区分に最終合格し、経済産業省の特許庁で働くことになりました。建築学科の新井梓文と申します。公務員試験について、インターネットで調べてみるとどれも文系公務員の情報ばかりで参考になりません。この合格体験記や近藤先生から、理系（技術系）公務員についての正確な情報を得るようにして下さい。

2.試験結果

難易度順	試験名	試験結果
難	国家総合職（工学区分）	一次合格→最終合格→特許庁内定
	東京都庁	筆記合格→面接辞退
	川崎市	筆記合格→面接辞退
易	国家一般職(建築区分)	筆記合格→面接辞退

成績開示

- ・国家総合職（工学：133位/195人中）
- 一次試験：教養19/40 専門29/40
- 二次試験：政策論文6/10 人事院面接 C 英語加点なし

3.試験について

『技術系公務員試験について、勉強期間は文系よりも短期間で済みます。ですが学部4年からは研究で忙しくなるので、春休み期間中にどれだけ仕上げられるかが重要であると考えます。』

おおまかな流れとして、私の勉強の流れを記載します。

〈学部3年10月〉

私が公務員試験の勉強を始めたのは、学部3年の10月でした。始めた当初は、第一志望が東京都庁でした。ここから、年明け1月末までは「数的処理」のみを週2日3時間程度しかやっておらず、「数的処理」は頭の体操ですので、日頃から継続的に行うことが大切です。

〈学部3年2月〉

私が本格的に公務員試験勉強を始めたのは、3年2月からでした。ここでようやく「専門科目」「論文」「文章理解」の対策を始めました。この時期にアルバイトを辞め、1日10時間程度勉強していました。

〈学部3年某日〉

3月某日、転機の日が訪れます。近藤先生から「国家総合職を受けてみては」と言われたのです。それまでは、自分には手の届かないものだと思い、挑戦すらしようとしていませんでした。し

かし、自分にも十分に合格の可能性があると仰っていただいたため、受験を決意しました。そこからというもの、国家総合職での採用である「特許庁」や「国土交通省」の魅力に惹かれ、第一志望は自然と「国家総合職」になっていきました。あの日、近藤先生の手紙がなかったら、今のこの状況はあり得ません。近藤先生には、大変感謝申し上げます。

〈学部4年4月〉

「国家総合職」一次試験の直前期になり、「時事対策」「自然科学」などの知識系を詰め込み始めました。「国家総合職」について、過去問は3～4年分解きました。

〈学部4年5月〉

4月24日に国家総合職一次試験、5月1日に東京都庁一次試験が終わり、1週間程度は勉強から離れました。（恐らく、ほとんどの受験生がここで一旦、休息を挟みました。）一次合格発表を受け、二次試験対策（「建築設計」「政策論文」）を始めました。5月以降は、1日3時間程度まで勉強時間は減っていました。正直、都庁が終わってから気が抜けてましたが、なんとか歯を食いしばって机に向かうようにしていました。

国家総合職二次筆記試験終了後すぐに、「人事院面接」対策を始めました。（準備期間は3日程度しかないので、「ネタ」は前持って考えておきましょう。）

〈学部4年6月〉

6月に入り、「国家一般職」「市役所」の試験が迫っていましたが、私の心は完全に官庁訪問へ向いていました。こんなこと言うのはあまり良くないかと思いますが、「国家一般職」「川崎市役所」の試験は惰性で受けました。それほどに「官庁訪問」は大きな壁であると、当時の私は感じていました。

〈学部4年7月5日〉

官庁訪問の結果、特許庁から内々定をいただきました。

私が行った全ての勉強量を100として、何にどれくらい時間をあてたかを『』内に記載します

◎教養試験について

- ・数的処理『30』：数的処理を制する者は、教養試験を制します。問題集の問題は必ずできるようにしましょう。国家総合職試験では、数的処理：10/16 取ることを目標にしていただけると良いと思います。実際の試験では、問題の取捨選択能力も非常に重要です。
- ・文章理解『5』：公務員特有の問題があるので、是非授業をご覧ください。授業と過去問だけで十分だと思います。
- ・社会科学『0』：一切手をつけておりません。
- ・人文科学『0』：一切手をつけておりません。
- ・自然科学『2』：スー過去で「物理」と「化学」を一通り目を通しました。

・時事『4』：「速攻の時事」がおすすめです。時事は、社会事情を知るために非常に重要です。

◎専門試験について

・工学の基礎『1』：大学受験で「数学」「物理」を使用したので、公式を確認する程度でした。

・建築専門『35』：「建築職公務員試験」の3冊が圧倒的におすすめです。これを抜け目なく行えば、かなりいい点が取れます。建築設計については、大学の設計の授業を受けていれば、特に問題はありません。

◎論文試験について

・小論文『5』：苦手だなと思っている人も、行政研究所の授業を見れば書けるようになります。私は、授業を1コマ受けただけで、LECの模試でBを取ることができました。

・政策論文『3』：小論文対策をしていると、政策論文はその応用であるため、十分役立ちます。(近藤先生の講義は必ず受けて下さい。)

◎面接について

・人事院面接『5』：ESは必ず複数の先生に見てもらいましょう。また、模擬面接（行政研究所や就職キャリアセンター）は最低5回は行いましょう。

・官庁訪問『10』：直前期になると、行研先生方に講義をしていただけます。

※面接対策・官庁訪問対策については、技術系公務員講座のイベントでアドバイスさせていただきます

4.振り返ってみて

過去の合格体験記や周りの受験生と比べてみても、勉強を始めたのはかなり遅かったかなと
思っております。ですが、私は性格上「短期集中型」であるため、モチベーションを保つために
これが最適でした。特に、春休みに猛勉強したことが、合格の要因ではないかと考えております。

5.まとめ

私が国家総合職に最終合格できたのは、近藤先生のお言葉があったからだと考えております。近藤先生には、大変感謝申し上げます。これから受験を迎える皆さんも、疑問点や質問、不安などがありましたら、是非近藤先生に相談して下さい。自分の創造を遥かに超えるお言葉をいただけます。そして、私自身、生田行政研究所で学習する最大のメリットは、近藤先生がいらっしゃることに
思っております。また、行政研究所の他の先生方、知財戦略センターの方々にも大変お世話になりました。末筆ながら、感謝申し上げます。

6.最後に

公務員試験を通して、より社会に目を向ける機会が多くなりましたし、人間的にも成長することができました。皆さんも、是非「学ぶ」ことを愉んで下さい。

皆さんのご健闘をお祈りいたします。